

「語らないわけにはいかない」 一使徒行伝講解説教 10-

詩篇
使徒行伝

第105篇 1節～6節
第4章 13節～22節

説教 本庄侑子 牧師

教会が誕生して間もない頃、ペテロとヨハネが逮捕されました。主イエスが言われた通り聖霊に満たされ、キリストを証しするために歩み出した矢先の出来事でした。私たちは、御心なら順調にいくと思いがちです。しかし、神に従うことで困難を招くこともあるのです。

釈放後、ペテロとヨハネは困難を仲間と分かち合い、共に祈りました。私たちもいつもしていることです。教会は知っているのです。困難に囲まれても天は開いている。主イエスが死と復活によって開いてくださった天に向かって、父なる神に助けを求めて祈ることができると。

脅迫される中、ペテロとヨハネは言いました。「自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」(20節)。彼らは取り返しのつかない失敗を犯しました。主イエスを裏切り、死に追いやったのです。主イエスが死なれた時、人々の嫉妬や殺意が主イエスを志半ばで殺し、弟子たちはその力に加担したのだと誰もが思いました。しかし次第に、それらは神の力が及ばなかったから起こったのではなく、神の計画の中にあったことが明らかになっていきました。

この時、彼らがどれほど脅迫されても主イエスのことを語り続けたわけ。それは、主イエスが自分たちの過ちを打ち破って復活してくださった姿をその目で見て、主イエスが全てをご存知の上で十字架で死んでくださったことをその耳で聞いたからです。聖霊をいただいた今、これまでの全てに、裏切ったあの時にさえも伸べられてきた神の御手が見えてきた。だから今の困難も、神の御手の外で起こっているのではないと信じ、語り続けることができたのでしょ

う。そんな彼らのそばには、足を癒していただいた男がいました。この男の存在は、彼らをつぶそうとする力を萎えさせました。神は、困難の中にある私たちを放置なさらず、生身の証人をそばに置き、主イエスを信じ、伝え続けるための信仰を鼓舞してくださるのです。

聖書を開けば、この男のような証人が私たちを囲んできます。詩篇105篇には、アブラハムから続く神の救いの歴史が切々と歌われています。繁栄を誇った時も、惨めさの極みを味わい尽くした時も、それら全ての中であって、神は変わることなく私たちを愛し、救うために働き続けておられた。主は真実で信頼に値するお方。

これは、数百年の歴史に耐え抜いて明らかになった事実だ。私たちも語らないわけにはいかない。主の奇しき御業を宣べ伝え続けよ！と。

また、教会にいとたくさんの証に囲まれます。先週は聖徒の日でした。天に召された兄弟姉妹の生涯を通して目にし、耳にしてきた出来事に、神の証が詰まっていることを発見しました。昨日の婚約式でも、御言葉と共にお二人との思い出を振り返ると、次から次へと証が現れ出てきました。あれもこれも、私が見たこと、聞いたことを語らないわけにはいかない！そう叫ぶようにして式辞を語ることとなりました。

復活の主と出会い、聖霊の助けを得て御言葉を思い巡らし、たくさんの証に囲まれると、これまでのことも、今、自分が置かれている状況も、たとえそれが困難な時であろうとも、アブラハムから続いてきた神の救いの歴史の中にあることを発見します。そして、それを語らないわけにはいかない平安と自由がわいてきます。

私たちも今朝、同じ平安と自由をいただいています。主の日の礼拝こそが、そのような場所だからです。主の日の礼拝。それは、直面する困難を分かち合い、共に祈る場所。聖霊の助けの中、御言葉を思い巡らしながら、天からも地上からも、たくさんの証人に囲まれる場所。

私たちにも見えてきます。かつて、イスラエルに幾多の困難を乗り越えさせ、紅海を分かち、救いの道を歩ませ続け、ついにはイエス・キリストを遣わしてくださった、あの神の御手が自分の人生にも伸べられている。神に従って困難に囲まれる時も、神に逆らった結果、取り返しのつかない失敗を犯した時でさえも、確かに伸べられている。終わりの日に至るまで。そのためにこそ、主イエスは十字架についてくださった。そう知らされて、これまで口にしてきた主イエスへの信仰告白、神への賛美が、いよいよ真実味を帯びて口にのぼってきます。

私たちも今朝、幾多の困難や罪を抱えながらも語らないわけにはいきません。神の真実を、主イエス・キリストの福音を「語らないわけにはいかない！」あの時、ペテロやヨハネが口にした言葉を私たちもまた口にさせられて、神の御手によって、新しい週へと送り出されるのです。

(記 本庄侑子)